

学 期	月	時 限	教科書 ページ	項目（タイトル）	学習課題	評価規準の具体例 ①＝知識・技能 ②＝思考・判断・表現 ③＝主体的に学習に取り組む態度㊟＝指導上の留意点・活用資料
第1部 1章 1節 青年期と社会参画（6時間） <習得する見方・考え方> 公共的な空間と人間との関わり、個人の尊厳と自主・自律、人間と社会の多様性と共通性 など <主題学習のテーマ：この節の問い> 「何のために働くか？」(p.22-23見方・考え方) <指導上の留意点> この単元では、青年期における自己と社会のあり方の理解に基づき、社会に参画する自立した主体としてのあり方・生き方について自分の意見を表現することを通じて社会形成とそれに結び付く、みずからのキャリア形成について理解させる。みずからの悩みや体験、個人と他者、対話の重要性などを踏まえた具体的な問いを設定するよう留意する。						①みずからの体験などを振り返ることを通して、みずからを成長させる人間としてのあり方・生き方について理解している。 ①自分自身が、自主的によりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体になることが、みずからのキャリア形成と共によりよい社会の形成に結び付くことについて理解している。 ②社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などのさまざまな集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現している。 ③公共的な空間における課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。
1 学 期	4	1	p.8-9	1 私たちの生きる現代社会	私たちの生きる現代社会は、どのような社会だろうか。	①現代の社会が抱える課題等についての知識を習得し、その活用方法を身につけている。 ②現代の社会についての諸資料を比較・判断し、現代社会や日本が直面する変化についてまとめ、みずからの意見や主張を分かりやすく表現している。 ㊟持続可能な社会について探究する第3部での学習の前提として扱い、資料や統計を基に考えるよう指導する。
1 学 期	4	2	p.10-11	2 青年期について考えよう	青年期に直面する課題に、私たちはどう向き合えばよいだろうか。	①青年期の発達課題について、その特徴を考察するための知識を理解し、身につけている。 ②青年期を理解する資料を収集し、青年期の特徴について思考・判断し、その内容について分かりやすく表現している。 ㊟p.22-23「何のために働くか？」の主題を踏まえて、青年期を意識させるよう指導する。
1 学 期	4	3	p.12-13	3 悩むことについて考えよう	青年期特有の悩みを解決するには、どのような方法があるだろうか。	①適応のしくみについて、悩みを合理的に解決するための知識を理解し、身につけている。 ②悩みと向き合う資料を収集し、合理的に解決する方法について思考・判断し、適切な方法で分かりやすく表現している。 ㊟p.20-21「自分ってどうい人？」を活用しながらみずからの可能性について考えさせるよう指導する。
1 学 期	4	4	p.14-15	4 ジェンダーについて考えよう	多様な性のあり方が認められる社会の実現には、何が必要だろうか。	①豊かな人間関係を構築するために必要な知識を理解し、身につけている。 ②男女共同参画社会の資料を収集し、両性の本質的平等の現状について思考・判断し、みずからの意見や主張を分かりやすく表現している。 ㊟p.77「同性婚は法的に認められるべきか？」の主題を踏まえて、多様な性による多様な豊かな社会の実現について考えさせるよう指導する。
1 学 期	4	5	p.16-17	5 学ぶことについて考えよう	AI（人工知能）の発達を受けて、人間の学びはどう変化するだろうか。	①近代科学の精神について理解し、学ぶことの考察に必要な知識を理解し、身につけている。 ②学ぶことの意義に関する資料を収集し、学び続けることの大切さについて思考し、みずからの意見や主張を分かりやすく表現している。 ㊟情報化社会になっている現代について扱うp.8-9の諸資料やp.168-169「産業構造の変化と職業選択」にも触れながら、多角的に考えさせるよう指導する。
1 学 期	4	6	p.18-19	6 社会参画とキャリアについて考えよう	自己実現を図るために、どのような社会参画ができるだろうか。	①社会参画と自己実現について、その関係を考察するための知識を理解し、身につけている。 ②社会との関わり方を知る資料を収集し、働くことの意義や、自己の職業選択に関して思考・判断し、みずからの意見や主張を分かりやすく表現している。 ㊟p.22-23「何のために働くか？」を活用し、自己実現の観点からキャリア意識を高めさせるよう指導する。
第1部 1章 2節 宗教・思想・伝統文化と社会(3時間) <習得する見方・考え方> 公共的な空間と人間との関わり、個人の尊厳と自主・自律、人間と社会の多様性と共通性 など 幸福、正義、公正、人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務 など <主題学習のテーマ：この節の問い> 「公共空間とはどのような空間？」(p.30-31見方・考え方) <指導上の留意点> この単元では、私たちが生きる社会を形成する伝統や文化、宗教、古来の日本人の考え方などへの理解に基づき、私たちはお互いの立場を理解し合う社会的な存在であることについて自分の意見を表現することを通じてみずからの価値観や他者の価値観、それらを形成する背景や要因について理解させる。学校や家庭、地域社会といった身近な日常生活に関連した具体的な問いを設定するよう留意する。						①人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いのさまざまな立場を理解し高め合うことのできる社会的な存在であること、伝統や文化、先人の取り組みや知恵に触れたりすることなどを通して、みずからの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができる存在であることについて理解している。 ②社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などのさまざまな集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現している。 ③公共的な空間における課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。
1 学 期	5	7	p.24-25	1 宗教について考えよう	科学技術が発達した現代でも、宗教が必要とされるのは、なぜだろうか。	①宗教が人々に与えているものを理解するために必要な知識を理解し、身につけている。 ②人々の生活と宗教の関わりを資料を収集し、宗教が人々の生活にもたらすものについて思考し、その内容を分かりやすく表現している。 ㊟p.30-31「公共空間とはどのような空間？」の主題を活用しながら、現代的な課題の見方・考え方を指導する。 ㊟宗教の持つ多様な面を紹介しながら、特定の宗教を取り上げすぎないように指導する。
1 学 期	5	8	p.26-27	2 日本の思想について考えよう	日本の思想は、どのように成立してきただろうか。	①日本人の思想について、その特色を捉えるために必要な知識を理解し、身につけている。 ②日本の思想を代表する資料を収集し、日本人の考え方の特色について思考し、思想の変遷について分かりやすく表現している。 ㊟多面性を持つ日本の思想の進展を学ぶにあたって、項目の羅列に終始しないようにする。
1 学 期	5	9	p.28-29	3 日本の伝統と文化について考えよう	日本の伝統や文化には、どのような特徴があるだろうか。	①文化の継承や創造、発信について、その特色に対応できる知識を理解し、身につけている。 ②日本特有の文化や伝統の資料を収集し、日本の伝統や文化の多様性について思考して、その継承と展開について、みずからの意見や主張を分かりやすく表現している。 ㊟p.186-187導入「和食の食材はどこから来ている？」や、p.194-195「グローバル化と自由貿易協定」などの主題との関連を意識したうえで、第3部の課題探究学習につながるよう指導する。
第1部 2章 1節 倫理的な見方・考え方(5時間) <習得する見方・考え方> 幸福、正義、公正、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方 など <主題学習のテーマ：この節の問い> 「『正義』の葛藤と生命倫理」誰に血清を打つか？(p.40思考実験) 「『共有地の悲劇』と環境問題」自分の羊を増やすべきか？(p.41思考実験) 「正しい嘘はあるか？～先人たちの教え～」(p.42-43見方・考え方) <指導上の留意点> この単元では、先哲の考え方の理解に基づき、公共的な空間における人間としてのあり方・生き方について自分の意見を表現することを通じて、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解させる。先哲について網羅的に扱うのではなく、現実社会を踏まえた具体的な問いを設定し、その解決策を考察させるよう留意する。						①選択・判断の手がかりとして、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解している。 ①現代の諸課題についてみずからも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方を活用することを通して、行為者自身の人間としてのあり方・生き方について探求することが、よりよく生きていくうえで重要であることについて理解する。 ①人間としてのあり方・生き方に関わる諸資料から、よりよく生きる行為者として活動するために必要な情報を収集し、読み取る技能を身につけている。 ②倫理的価値の判断において、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方と、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などを活用し、みずからも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、人間としてのあり方・生き方を多面的・多角的に考察し、表現している。 ③公共的な空間における人間としてのあり方・生き方について、現代社会に見られる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。
1 学 期	5	10	p.32-33	1 よく生きる 古代ギリシャの思想	よりよく生きるために大切なことは何だろうか。	①先哲の思想を現代社会で生きる立場から考察するために必要な知識を理解し、身につけている。 ②生きることに関する資料を収集し、よく生きることについて、幸福と正義のあり方から思考し、その内容を意見として分かりやすく表現している。 ㊟p.40「『正義』の葛藤と生命倫理」やp.41「『共有地の悲劇』と環境問題」の主題を活用し、思考実験を通して社会的な見方・考え方を習得できるよう指導する。

学期	月	時 限	教科書 ページ	項目（タイトル）	学習課題	評価規準の具体例 ①＝知識・技能 ②＝思考・判断・表現 ③＝主体的に学習に取り組む態度/㊟＝指導上の留意点・活用資料
1 学期	5	1 1	p.34-35	2 人とは何か 古代中国の思想	人間とはどのような存在だろうか。	①社会と人間に関わる古代中国の思想についての知識を理解し、身につけている。 ②古代中国の思想を人間関係に関する身近な事例の解決に活用し、みずからの意見や主張を分かりやすく表現している。 ㊟スポーツや日常生活などにおける具体的な事例を取り上げ、他者との関わり方についてみずから考えることができるよう指導する。
1 学期	5	2 ・ 1 3	p.36-37	3 動機と結果 近代西洋の思想	よい行いのための判断基準には、どのようなものがあるだろうか。	①社会についてのさまざまな判断基準に関わる近代西洋の思想についての知識を身につけている。 ②先哲の考え方を活用して具体的な事例についての判断を行い、みずからの意見や主張を分かりやすく表現している。 ㊟p.42-43「正しい嘘はあるか？～先人たちの教え～」などの主題を活用し、義務論と帰結主義、徳倫理学の立場の考え方を体験的に学習できるように指導する。
1 学期	5	1 4	p.38-39	4 公平と正義 現代の思想	公平な社会の実現のためには、何が必要だろうか。	①他者と共に生きることについて考察するために必要な現代思想の知識を理解し、身につけている。 ②他者と共に生きることや公正と正義に関する資料を収集し、思考・判断し、その内容についてみずからの意見や主張を分かりやすく表現している。 ㊟p.152-153「政府の役割と財政の機能」やp.198-199「経済格差の是正」などの学習に活用できるような概念を習得できるよう指導する。
第1部 3章 1節 社会の基本原則と憲法の考え方(9時間) <習得する見方・考え方> 幸福、正義、公正、人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務 など <主題学習のテーマ：この節の問い> 「多数決の課題と民主主義」文化祭の出し物、どうやって決めればよい？(p.66思考実験) 「『囚人のジレンマ』と協働」2人にかけられた容疑。彼らは自白すべきか？(p.67思考実験) 「女性議員の権を確保するのは『公正』？」(p.68-69見方・考え方) <指導上の留意点> この単元では、公共的な空間における基本原則としての日本国憲法の考え方の理解に基づき、個人と社会の関係等について自分の意見を表現することを通じて、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定等の大切さ、公共的な空間に生じる課題を探究することの大切さ等について理解させる。思考実験や概念操作といった抽象的な内容が多いため、現実社会を踏まえた具体的な問いを設定するよう留意する。						①各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作るうえで必要であることについて理解している。 ①人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理について日本国憲法を踏まえて理解している。 ②公共的な空間における基本的原理について、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現している。 ③公共的な空間における基本的原理について、日本国憲法を踏まえて現代社会に見られる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。
1 学期	6	1 5	p.44-45	1 近代立憲主義の原理	近代立憲主義とはどのような考え方だろうか。	①近代立憲主義の考え方の基本的な理解を踏まえ、国民主権、基本的人権の尊重、権力分立、法の支配など、近代憲法を構成する諸原則に関する知識を身につけている。 ②近代立憲主義の考え方をを用いて、国づくりにおける憲法制定の重要性などについて判断し、みずからの意見や主張を分かりやすく表現している。 ㊟p.66「多数決の課題と民主主義」などの主題について、現実社会の多数決事例の資料などを活用して、合意形成の際の配慮事項等について関心を高めることができるよう指導する。
1 学期	6	1 6	p.46-49	2 近代立憲主義の広がり	近代立憲主義は、いつから形成され、どのように広がっていっただろうか。	①近代立憲主義のあゆみに関する基本的な理解を踏まえ、普通選挙の意義、自由国家と福祉国家、全体主義などに関する知識を身につけている。 ②近代立憲主義と民主主義、君主制と共和制などに関する基本的な考え方をを用いて、安定した政治体制のあり方などについて判断し、みずからの意見や主張を分かりやすく表現している。 ㊟p.49「ナチス・ドイツの悪夢～民主主義の限界～」などの主題について、図13「ナチ党の議席割合の推移」などを活用して、健全な民主主義と立憲主義に向けた課題等について関心を高めることができるよう指導する。
1 学期	6	1 7	p.50-51	3 日本国憲法	日本国憲法には、どのような特徴があるだろうか。	①敗戦から、GHQと日本政府による大日本帝国憲法の見直しに至る経緯についての基本的な理解を踏まえ、日本国憲法の基本原則に関する知識を身につけている。 ②最高法規としての憲法の位置付けに関する基本的な考え方をを用いて、憲法改正手続きの妥当性などについて判断し、みずからの意見や主張を分かりやすく表現している。 ㊟導入「見直された天皇の地位」などの主題について、図4「大日本帝国憲法と日本国憲法」などを活用して、国民主権と天皇の地位の関係について関心を高めることができるよう指導する。
1 学期	6	1 8	p.52-53	4 平等に生きる権利	平等性の保障のためにどのような取り組みがなされているだろうか。	①平等権と差別に関する基本的な理解を踏まえ、差別の現実と差別解消に向けた取り組みに関する知識を身につけている。 ②平等権に関する基本的な考え方にに基づき、現実社会の差別事例と差別解消の重要性などについて判断し、みずからの意見や主張を分かりやすく表現している。 ㊟p.68-69「女性議員の権を確保するのは『公正』？」などの主題について、形式的平等と実質的平等の違いに関する資料などを活用して、「平等」や「公正」に対する考え方を深めることができるよう指導する。
1 学期	6	1 9	p.54-55	5 自由に生きる権利①	精神的自由とはどのような自由だろうか。	①精神的自由の重要性に関する基本的な理解を踏まえ、個々の権利の内容に関する知識を身につけている。 ②精神的自由に関する基本的な考え方をを用いて、主な訴訟や判例の妥当性などについて判断し、みずからの意見や主張を分かりやすく表現している。 ㊟p.64-65「これSNSに投稿していい？」などの主題について、肖像権、名誉権、知的財産権に関する資料などを活用して、生活と人権の関わりについて関心を高めることができるよう指導する。
1 学期	6	2 0	p.56-57	6 自由に生きる権利②	身体的自由や経済的自由として、どのようなことが保障されているだろうか。	①身体的自由の重要性、および経済的自由の重要性とその制約に関する基本的な理解を踏まえ、個々の権利の内容に関する知識を身につけている。 ②身体的自由、経済的自由に関する基本的な考え方をを用いて、主な訴訟や判例の妥当性などについて判断し、みずからの意見や主張を分かりやすく表現している。 ㊟導入「無実の罪で失われた18年」などの主題について、冤罪被害に関する他の事例なども活用して、刑事手続きにおける人権保障の重要性に気付くことができるよう指導する。
1 学期	6	2 1	p.58-59	7 人間らしく生きる権利	人間らしい生活を営むために、憲法はどのような権利を保障しているだろうか。	①社会権、国務請求権、参政権、国民の義務などに関する基本的な考え方の理解を踏まえ、個々の権利と義務の内容に関する知識を身につけている。 ②社会権、国務請求権、参政権に関する基本的な考え方をを用いて、権利保障をどこまで求めるべきかなどについて判断し、みずからの意見や主張を分かりやすく表現している。 ㊟導入「公務員の争議行為、認めるべき？」などの主題について、図5「公務員の労働三権」などを活用して、権利と義務の関係などについて関心を高めることができるよう指導する。
1 学期	6	2 2	p.60-61	8 広がる人権の考え方	新しい人権の保障が必要になってきているのはなぜなのだろうか。	①社会の変化と人権意識の高まりに関する基本的な理解を踏まえ、個々の新しい人権に関する知識を身につけている。 ②新しい人権に関する基本的な考え方をを用いて、人権保障と公共の福祉の関係などについて判断し、みずからの意見や主張を分かりやすく表現している。 ㊟p.67「『囚人のジレンマ』と協働」などの主題について、現実社会の事案や温暖化対策の事例などを活用して、協働の困難さと重要性に気付くことができるよう指導する。
1 学期	6	2 3	p.62-63	9 人権保障の国際的な広がり	国際的な人権保障はどのように広がっているだろうか。	①人権の国際化の流れに関する基本的な理解を踏まえ、世界の人権問題に関する知識を身につけている。 ②国際的な人権問題の解決に向けた基本的な考え方を踏まえて、国際社会から見た日本の人権問題などについて判断し、みずからの意見や主張を分かりやすく表現している。 ㊟導入「国籍を持たない人々の人権保障」などの主題について、図6「主な国の難民認定者数」などを活用して、難民の保護等について関心を高めることができるよう指導する。

学 期	月	時 限	教科書 ページ	項目（タイトル）	学習課題	評価規準の具体例 ①＝知識・技能 ②＝思考・判断・表現 ③＝主体的に学習に取り組む態度/㊦＝指導上の留意点・活用資料
第2部 1章 1節 法の意義と司法参加(7時間) <取り扱う現実社会の事例や課題> ①法や規範の意義および役割／②多様な契約および消費者の権利と責任／③司法参加の意義 など <主題学習のテーマ：この節の問い> 「同性婚は法的に認められるべきか？①」(p.77諸課題) 「入学を辞退したら、入学金や授業料は返還されるか？②」(p.83諸課題) 「死刑制度は続けるべきか？③」(p.90-91諸課題) <指導上の留意点> この単元では、法の基本的な考え方に関する正確な理解に基づき、身近な主題についてさまざまな考え方を踏まえて判断し、みずからの意見や主張を表現することを通じて、法の意義や司法参加について関心を高めさせる。法や社会規範の役割、法の役割の限界、私法に関する基本的な考え方、裁判員制度などを取り扱うが、理念や制度は抽象的な内容になりがちなので、生徒が考えやすい具体的な問いを設定するよう留意する。						
1 学 期	6	2 4	p.72-73	1 社会規範と法	社会規範とはどのようなものだろうか。	①社会規範における法の特色に関する基本的な理解を踏まえ、法の種類や法の秩序に関する資料を活用して、社会における法の役割や機能に関する知識を身につけている。 ②法に基づき社会を形成するという基本的な考え方をういて、成年年齢のあり方などについて判断し、みずからの意見や主張を分かりやすく表現している。 ㊦p.77「同性婚は法的に認められるべきか？」などの主題を活用し、法の役割や限界についても関心を高めることができるよう指導する。
1 学 期	7	2 5	p.74-75	2 私たちの生活と法	法律は、私たちの生活においてどのような役割を果たしているだろうか。	①日常生活と法に関する基本的な理解を踏まえ、図2「私たちの一生と法律」やCOLUMN「法律を作ってみよう」を活用して、身の回りの法の役割に関する知識を身につけている。 ②法は単に義務や罰を課するものではないという基本的な考え方に基づいて、日常におけるあるべき法のあり方について判断し、みずからの意見や主張を分かりやすく表現している。 ㊦p.76「交通事故を起こしたら？」などの主題を活用し、法の紛争解決機能について理解を深めることができるよう指導する。
1 学 期	7	2 6	p.78-79	3 契約の考え方	契約自由の原則に、いくつもの例外があるのはなぜだろうか。	①所有権や契約に関する基本的な理解を踏まえ、契約の成立や解除などの資料を活用して、法的な権利と責任に関する知識を身につけている。 ②契約の原則と例外に関する基本的な考え方をういて、契約をめぐるトラブル事例などについて判断し、みずからの意見や主張を分かりやすく表現している。 ㊦p.82「契約で気をつけることは？」などの主題を活用し、契約自由の原則と例外など私法に関する基本的な考え方を身につけることができるよう指導する。
1 学 期	7	2 7 ・ 2 8	p.80-81	4 消費者の権利と責任	消費者問題が起こるのはなぜだろうか。	①消費者問題に関する基本的な理解を踏まえ、過去の問題事例とその対処法などの資料を活用して、消費者の権利と責任に関する知識を身につけている。 ②消費者問題の背景にある情報の非対称性などの基本的な考え方をういて、あるべき消費活動の姿について判断し、みずからの意見や主張を分かりやすく表現している。 ㊦p.83「入学を辞退したら、入学金や授業料は返還されるか？」などの主題を活用し、消費者契約の重要性について関心を高めることができるよう指導する。
1 学 期	7	2 9	p.84-85	5 司法の役割	司法はどのような役割を担っているだろうか。	①司法権の位置付けや三審制に関する基本的な理解を踏まえ、裁判の流れや傍聴手続の実態に関する資料を活用して、司法に関する知識を身につけている。 ②司法権の独立などの基本的な考え方をういて、違憲審査のあり方について判断し、みずからの意見や主張を分かりやすく表現している。 ㊦p.90-91「死刑制度は続けるべきか？」などの主題を活用し、重大な判断を下すための三審制や司法権の独立の意義について深く理解できるような指導する。
1 学 期	7	3 0	p.86-87	6 刑事裁判とその課題	日本の司法制度には、どのような課題があるだろうか。	①刑事裁判に関する基本的な理解を踏まえ、導入「開かれた司法の実現に向けて」や図6「裁判にかかった時間」などを活用して、刑事裁判の課題などに関する知識を身につけている。 ②推定無罪の原則などの考え方をういて、刑事手続の問題点と解決策を判断し、みずからの意見や主張を分かりやすく表現している。 ㊦p.88「逮捕されるかどうか？」やp.89「裁判員になったら？」などの主題を活用し、刑事手続と人権保障や国民の司法参加のあり方について考察できるように指導する。
第2部 2章 1節 民主社会と政治参加(7時間) <取り扱う現実社会の事例や課題> ④政治参加と公正な世論の形成、地方自治 など <主題学習のテーマ：この節の問い> 「政権には、どのような政党の組み合わせが望ましいか？④」(p.112-113諸課題) <指導上の留意点> この単元では、さまざまな意見や利害を調整するという政治の意義や統治機構のしくみの正確な理解に基づき、よりよい社会を構成するための取り組みについて、自分の意見を表現することを通じて、政治参加と公正な世論の形成、地方自治等について理解させる。学術的な視点と思索的な視点、あるいは現在のしくみの矛盾点を見いだす視点等から、考察する主題を見つけ出し、具体的な問いを設定し、その解決策を考察・構想できるよう支援することに留意する。						
2 学 期	9	3 1	p.92-93	1 政治と権力	政治権力は、何のため、誰のためにあるだろうか。	①政治の定義を踏まえ、法の支配の原理を活用して、代表民主制と国民主権の考えを背景に考察するための知識を理解し、身につけている。 ②代表民主制の考えに基づき、政治的無関心について考察、判断し、政治への参加や監視についてのみずからの意見や主張を分かりやすく表現している。 ㊦COLUMN「緊急事態条項について考える」などを活用して、緊急事態条項等、政治の世界においても絶対的な正義は存在しないことに気付きながら、政治権力がどのように使われることが最善であるかについて考察できるように指導する。
2 学 期	9	3 2	p.94-96	2 議院内閣制と国会	国会にはどのような役割と課題があるだろうか。	①議院内閣制の考え方の上に立って日本の国会のしくみ、法律の制定、二院制の特徴を三権の関係の中で考察するための知識を理解し、身につけている。また、憲法の下での君主制の考えを踏まえ、天皇制や諸外国の王室制度について理解している。 ②国会のルールに基づいて国会の課題とその対応について理解し、改善すべき点や課題として捉えるべき内容について、みずからの意見や主張を分かりやすく表現している。 ㊦図2「議院内閣制のしくみ」やp.112-113「政権には、どのような政党の組み合わせが望ましいか？」などを活用して、議院内閣制のしくみを、国民（主権者）、国会、内閣、それぞれの視点から、その特徴について気付かせるとともに、国会における審議・議決のしくみのよい点や改善すべき点（問題点）等について気付くことができるよう指導する。
2 学 期	9	3 3	p.97-99	3 権力分立と行政の役割	行政（内閣）には、どのような役割と課題があるだろうか。	①権力分立の考え方を踏まえ、行政のしくみと活動についての知識を理解し、身につけている。また、行政の課題について改善点を考察するための知識を理解し、身につけている。 ②行政のしくみや活動を通して、しくみが機能していることへの評価や問題点等、行政の活動について判断し、行政の課題について、みずからの意見や主張を分かりやすく表現している。 ㊦p.94図2「議院内閣制のしくみ」やp.98図3「アメリカの政治体制」などを活用して、行政権の行使のしくみにてさまざまな対応があることに気付き、民主主義を適切に成立させるしくみについて考えることの大切さを意識できるよう指導する。
2 学 期	9	3 4	p.100-101	4 地方自治の役割	地方自治にはどのような役割と課題があるだろうか。	①地方自治の本旨に関する理解の上に立って団体自治と住民自治の定義を活用し、住民の政治参加のあり方を通して地方自治の課題を指摘し、対策を考察するために必要な知識を身につけている。 ②地方自治のしくみを地方自治体の蔵入の資料を用いて、国政との違い、地方公共団体が取り組むべき業務について、みずからの意見や主張を分かりやすく表現している。 ㊦図4「地方自治のしくみ」などを活用して、地方自治における住民の政治参加について、その特徴やしくみ、国政との違いに気付くよう指導する。また、p.6やp.202の高校生生活動事例も、地方自治への社会参画の例として活用したい。

学期	月	時限	教科書ページ	項目（タイトル）	学習課題	評価規準の具体例 ①＝知識・技能 ②＝思考・判断・表現 ③＝主体的に学習に取り組む態度/㊟＝指導上の留意点・活用資料
2学期	9	35	p.102-103	5 政党政治とメディア	代表民主制では、政党はどのような役割を果たしているだろうか。	①政党の目的と役割を踏まえて、政党政治の課題について理解している。また、政党の活動と世論やメディアとの関わりを関連させて考察するために必要な知識を身につけている。 ②代表民主制における政党の役割を基に、世論の形成に政党やメディアが果たす役割について考察し、多様な情報をどのように受け止めて適切に判断したらよいか、みずからの意見や主張を分かりやすく表現している。 ㊟p.112-113「政権には、どのような政党の組み合わせが望ましいか？」の主題を活用して、代表民主制において政党の主張する政策が国民にとっては選択肢の一つに過ぎないことを理解し、多様な主張の中から適切な政策の立案につながる考えを選択するために、社会のしくみと判断力が必要となることを指導する。
2学期	9	36・37	p.106-107	6 選挙制度とその課題	日本の選挙制度には、どのような課題があるだろうか。	①国民の政治参加にはさまざまな手段があることを理解したうえで、政治参加の権利（参政権）と日本の選挙制度のしくみについて、特徴と課題を指摘するために必要な知識を身につけている。 ②参政権を行使する適切な方法について思考し、現行制度の理解の上に立って、その制度の課題を指摘し民意を反映するためのしくみや制度について、みずからの意見や主張を分かりやすく表現している。 ㊟参政権を保障するにあたり、実社会の状況に基づいた現実的なしくみを考えさせるとともに、民意の反映方法にはさまざまな方法や立場によって選択する考え方の種類があることに気付くよう指導する。 ㊟実践的な投票までの流れや判断方法については、p.108-109「初めての選挙 誰に投票する？」を活用する。
第2部 2章 2節 国際政治の動向と平和の追求(8時間) <取り扱う現実社会の事例や課題> ㊟国家主権、領土（領海、領空を含む）／㊟日本の安全保障と防衛／㊟国際貢献を含む国際社会における日本の役割 など <主題学習のテーマ：この節の間い> 「内戦状態の国に国際社会は介入すべきか？㊟㊟」（p.132-133諸課題） 「SDGsのどの目標を優先して協力・支援すべきか？㊟」（p.134-135諸課題） <指導上の留意点> この単元では、国家主権や国際法によって成立する国際社会の正確な理解に基づき、日本の固有の領土に残る問題の平和的な解決や安全保障、国際連合における国際貢献について、みずからの意見や主張を表現することを通じて、国家主権、領土、日本の安全保障と防衛、国際社会における日本の役割などについて理解させる。国際情勢の変化を踏まえたり、持続可能な開発目標（SDGs）を用いたりして、具体的な問いを設定し、その解決策を考察・構想できるよう支援することに留意する。						①国家主権、領土（領海、領空を含む）、日本の安全保障と防衛、国際貢献を含む国際社会における日本の役割などに関わる現実社会の事例や課題を基に、よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることについて理解している。 ②自立した政治主体として解決が求められる具体的な主題について、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 ③国家主権、領土（領海、領空を含む）、日本の安全保障と防衛、国際貢献を含む国際社会における日本の役割などに関わる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。
2学期	9	38	p.114-115	1 国家と国際法	国際社会において、国家の役割とはどのようなものだろうか。	①国際社会における国家の主権を理解したうえで、主権国家間の国際法に基づく国際社会のあり方について、発展と調整の両面から特徴を指摘するために必要な知識を身につけている。 ②主権国家を成立させて自国の利益を実現する国際社会において、国内法と国際法の違いを適正に捉えながら、ナショナリズムを背景とした諸国家間の争いに解決方法について多面的な意見を分かりやすく表現している。 ㊟国際社会における主権国家の主張は、その国家における正義を表しており、一概に支持されたり否定されたりするものではないことを理解したうえで、日本も国際社会と協調しながら国益の確保に取り組んでいることを考察できるよう指導する。 ㊟p.132-133「内戦状態の国に国際社会は介入すべきか？」の主題などを活用し、国家が持つ主権について多面的・多角的に考察できるよう指導する。
2学期	10	39	p.116-117	2 日本の主権と領土	現代の日本では、領土をめぐるどのような動きがあるだろうか。	①近代の国際法における領有権の定義を理解するとともに、日本の領土に係る歴史的経緯により、日本の固有領土について正しく理解し、生じている諸問題を解決する意思を持つことができる。 ②日本の領土を実効支配している諸外国に対し、国際法に違反することなく、日本の主張の理解を求め、本来の領土の状況に戻すことがいかに重要で取り組まなければならないという意見を分かりやすく表現している。 ㊟日本固有の領土を実効支配したり、領有権を主張したりしている国家に対し、領有権の考えと日本の「固有の領土」であることの理解を、日本は平和と安全が確立されている状況において求め続けることができるよう指導する。
2学期	10	40	p.118-119	3 平和主義と日本の防衛政策	日本の平和主義は、どのような特徴があるだろうか。	①平和主義が誕生した歴史的背景と、日本国憲法に定められている平和主義の理解の上に立って、第二次世界大戦後の日本の防衛政策についての考察に必要な知識を身につけている。 ②平和主義を実現するためのさまざまな取り組みを憲法の平和主義に照らし合わせて考え、安全で平和な状態を維持拡大する立場から、今後取り組むべき事例について、みずからの意見や主張を分かりやすく表現している。 ㊟平和主義の考え方を、言葉のうえでの解釈のみに終始することなく、国際情勢の変化の中で、普遍的かつ実効性のある状況で展開する視点から考察できるよう指導する。
2学期	10	41	p.120-121	4 これからの日本の安全保障	日本の平和と安全はどのように守っていけばいいだろうか。	①現在の日本の安全と平和を構築している国際社会の枠組みや取り決めの理解の上に立って、国際社会の中で日本が実現しようとしている外交に係る動向について考察するために必要な知識を身につけている。 ②日本の安全保障について、国際社会における日本の政治や経済の繋がりや理解の上に立って、国際協調主義の下、日本の探るべき政策について考え、探るべき手続について判断し、その効果について分かりやすく表現している。 ㊟図3「個別的主権と集団的主権」などを活用して、日本の国益を守るための集団的主権と国際社会の安全と平和を実現するための国際貢献に係る活動等、それぞれの活動の目的や意義が異なる点に気付き、今後の安全保障の適正なあり方について考察できるよう指導する。
2学期	10	42	p.122-123	5 国際連合の役割と活動	国連はどのような目的で活動しているだろうか。	①国際連合の目的について、組織が発足した歴史的な背景、発足した組織が有効に機能している点や改善を進めなければならない点等を指摘し、今後取り組みを進めなければならない事例について考察するために必要な知識を身につけている。 ②国際連合が成立してから今日に至るまでの組織の拡大に伴う組織としての変遷や活動内容の変化の理由について考え、解決すべき課題の優先順位を判断し、具体的な対応についての、みずからの意見や主張を分かりやすく表現している。 ㊟国益を越えた人類の共通の利益の実現を図る取り組みがあることに気付かせるとともに、その取り組みを行っているのは国益の実現を確保する主権国家である点に気付かせながら、国際社会の課題を解決するための必要な手立てについて考察させる。
2学期	10	43	p.124-125	6 紛争とテロリズム	なぜ世界各地で紛争やテロが起こっているのだろうか。	①紛争やテロが生じる原因について、事態は単純に解決することができない複雑な様相を呈していることを理解したうえで、紛争の解決に取り組む姿勢とテロを否定することが表明するための知識を身につけている。 ②対立する勢力の争いを収拾し、その後の共存を図るためのしくみを成立させるための施策について考察することを通して、国際紛争の当事者とその背景にある勢力の情勢について説明している。 ㊟p.130-131「戦後の国際政治の変遷」を活用して国際政治の変遷を踏まえながら、政治的な手法で解決を図る可能性がある紛争や対立等への向き合い方を考察するとともに、テロリズムについては手段そのものを認めてはならないことを確実に理解できるよう指導する。
2学期	11	44	p.126-127	7 核兵器と軍縮の課題	世界の軍縮にはどのような課題があるだろうか。	①核兵器をはじめとする兵器の開発、保有、廃棄、抑止等、その扱いに係る考え方の理解の上に立って、自国が軍事的に優位に立つ政策が主張される国際社会における軍縮の必要性について考察するための知識を身につけている。 ②核兵器、生物兵器、化学兵器並びに地雷等の兵器を所有する考え方と禁止や削減について主導している考え方を比較、整理し、平和を確保するための取り組みについて、みずからの意見や主張を分かりやすく表現している。 ㊟核兵器をはじめとする大量破壊兵器を所有している国家等がある現状に立って、兵器の開発や製造の阻止、使用の制限や禁止の実現の障害となっている国際社会の状況を理解させ、取り組むべき課題を考察できるよう指導する。 ㊟p.67「『四人のジレンマ』と協働」を活用し、軍縮が困難である理由を、思考実験を通して気付き、その解決策を考察・構想できるよう指導する。
2学期	11	45	p.128-129	8 国際協力と日本の役割	国際社会の中で日本はどのような役割を果たすべきだろうか。	①国際社会において実施されている国際連合等による取り組みや日本政府の取り組みについて理解するとともに、今後、解決しなければならない課題が存在していることについて考察するための知識を身につけている。 ②国際協力が行われてきた政策の目標と達成度について理解するとともに、それぞれの政策の成果と課題について考察し、今後の国際協力のあり方について、みずからの意見や主張を分かりやすく表現している。 ㊟p.134-135「SDGsのどの目標を優先して協力・支援すべきか？」の主題などを活用し、国際協力として掲げた目標を実現するために必要な国家の政策や民間組織の施策、予算、人手、受け入れ国の理解と協力等、整えなければならない事例について気付き、現実的かつ具体的に考察できるよう指導する。

学期	月	時限	教科書ページ	項目（タイトル）	学習課題	評価規準の具体例 ①＝知識・技能 ②＝思考・判断・表現 ③＝主体的に学習に取り組む態度/㊟＝指導上の留意点・活用資料
第2部 3章 1節 市場経済のしくみ(8時間) <取り扱う現実社会の事例や課題> ㉔市場経済の機能と限界/㉕金融の働き/㉖財政および租税の役割、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化 など <主題学習のテーマ：この節の間い> 「図書館の運営を民間に任せるべきか?㉔」(p.164諸課題) 「キャッシュレス社会に向けての課題は?㉕」(p.165諸課題) 「消費税率を引き上げるべきか?㉖」(p.166-167諸課題) <指導上の留意点> この単元では、希少な資源を効率的に配分する市場メカニズムに対する正確な理解に基づき、公正かつ自由な経済活動が行われる社会を構成するための取り組みについて自分の意見を表現することを通じて、市場経済の機能と限界、金融の動き、財政および租税の役割について理解させる。その際、大きく変容する金融の働きや厳しい財政状況など現実社会を踏まえた具体的な間いを設定し、その解決策を考察・構想できるよう支援することに留意する。						
2学期	1	4	p.136-137	1 経済とその考え方	経済とは、どのような活動だろうか。	①市場機構や分業の考え方にに基づき、経済の三つの主体とその循環などの資料を活用して、市場経済の考え方、限りある資源を最適に配分するしくみ、経済循環に関する知識を身につけている。 ②市場経済の考え方をを用いて、市場機構や分業のあり方を理解し、その内容を分かりやすく表現することができる。 ㊟資源の希少性については必ず触れるようにする。図3「家計とは」図4「経済の三つの主体とその循環」を活用して、経済社会の循環について理解を深めるように指導する。
2学期	1	4	p.138-140	2 市場のメリットと限界	市場メカニズムが機能しないのは、どのような場合だろうか。	①市場経済に関する基本的な理解に基づき、市場経済の特徴である需要と供給の関係の資料を活用して、市場経済の機能とその限界に関する知識を身につけている。 ②市場経済は公正で自由な競争を促進しているという考え方をを用いて、その役割と限界について、みずからの意見を分かりやすく表現している。 ㊟図4「需要と供給の均衡」図5「需要と供給の変化」を活用して市場メカニズムについて理解を深めるよう指導する。その際には「市場の失敗」についても具体例を用いて触れるよう指導する。また、p.141「大きな政府と小さな政府」を活用し、歴史的流れからも確認できるようにする。
2学期	1	4	p.142-143	3 企業の目的と役割	企業はどのような目的で活動し、どのような役割を担っているだろうか。	①企業活動と株式会社に関する基本的な理解に基づき、企業、株式会社、企業の責任に関する資料を活用して、株式会社のしくみと役割、社会的責任に関する知識を身につけている。 ②企業についての知識を用いて、企業のしくみ、活動について説明することができる。また、企業活動の目的や責任について公正の考え方を踏まえて思考し、その内容についてみずからの意見や主張を分かりやすく表現している。 ㊟図4「株式会社のしくみの例」を活用したり、p.144-145「企業活動と資金調達」を参照したりすることで、株式会社のしくみとその役割について理解できるよう指導する。なお、企業の社会的責任については、具体的にどのような例があるかを考え、示すようにする。
2学期	1	4	p.146-147	4 金融の役割	経済活動に金融が必要なのは、なぜだろうか。	①金融と日本銀行に関する基本的な理解に基づき、金融の役割、日本銀行の役割に関する資料を活用して、必要な知識を身につけている。 ②金融や日本銀行の役割についての知識を用いて、金融の役割や金融政策、日本銀行の役割について分かりやすく表現できている。 ㊟図5「金融における家計・企業・政府の関係」を活用して、金融の役割について理解を深めるように指導する。その際は、金融の自由化、グローバル化について必ず触れること。なお、p.148-149「社会全体のお金の量はどのくらいか?」とp.150-151「人生設計 必要なお金」を適宜参照すること。
2学期	1	5	p.152-153	5 政府の役割と財政の機能	市場経済において、政府の役割と財政の機能は、どのようなものだろうか。	①市場における政府の役割に関する基本的な理解に基づき、財政の機能、財政政策のしくみと経済に与える影響について、必要な知識を理解し、身につけている。 ②政府の役割と財政の機能、財政政策の基本的な考え方をを用いて、財政の機能や現在の財政政策について分かりやすく表現できている。また、景気の自動安定装置（ビルトイン・スタビライザー）について説明できている。 ㊟三つの財政の機能（資源配分機能、所得再分配機能、景気の安定化機能）について、しっかりと理解できるよう指導する。また、図5「財政政策と景気の自動安定化装置」を活用して、財政と景気の関係について理解できるよう指導する。
2学期	1	5	p.154-155	6 日本の財政の課題	日本の財政の課題には、どのように向き合っていけばよいだろうか。	①財政や税制に関する基本的な理解に基づき、財政の歳入と歳出、租税の種類々のグラフを活用して、財政、税制のしくみを理解し知識を身につけている。 ②財政や税制の基本的な考え方をを用いて、財政、税制の現状について判断し、その課題について自分の意見や主張を分かりやすく表現している。 ㊟図3「日本の公債残高の推移」やp.166-167「消費税率を引き上げるべきか?」の主題などを活用して、財政の課題と税のあり方について考察できるよう指導する。また、税金の使い方については納税者の立場から考えさせることに留意する。
2学期	1	5	p.156-157	7 経済の変動	経済はどのように、成長していくだろうか。	①GDP（国内総生産）と国富に関する基本的な理解に基づき、経済を測る指標の資料を活用して、景気変動と変動から生じる現象について必要な知識を身につけている。 ②持続的な経済成長の要因を、景気変動と変動から生じる現象について考察し、その内容や影響について自分の意見を分かりやすく表現している。 ㊟図4「消費者物価指数の推移」とp.159図8「日本の名目GDPの推移」を活用して、物価と景気の関係について理解できるよう指導する。その際に、デフレスパラルなどの現代的課題に留意する。なお、GDPの具体的な理解については、p.158-159「GDPの見方・考え方・使い方」を活用するよう促す。
第2部 3章 2節 豊かな社会の実現(7時間) <取り扱う現実社会の事例や課題> ㉗職業選択/㉘雇用と労働問題/㉙財政および租税の役割、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化 など <主題学習のテーマ：この節の間い> 「これからの社会、働くならどのような形態か?㉘㉙」(p.182-183諸課題) 「どのような公的年金制度が望ましいか?㉙」(p.184-185諸課題) <指導上の留意点> この単元では、変化する産業構造と労働のあり方、社会保障の意義と課題に対する正確な理解に基づき、国民福祉の向上に向けた取り組みについて自分の意見を表現することを通じて、職業選択、雇用と労働問題、少子高齢社会における社会保障の役割といった諸問題について理解させる。進行する少子高齢化や技術革新の急速な発展などの社会変化を踏まえた具体的な間いを設定し、その解決策を考察・構想できるよう支援することに留意する。						
3学期	1	5	p.168-169	1 産業構造の変化と職業選択	産業構造が変化する要因は、何だろうか。	①技術革新により産業構造が変化していくという基本的な理解に基づき、グローバル化やAIが進化していることから職業選択の幅を広げていく必要が生じていることを理解するために必要な知識を身につけている。 ②産業構造の変化についての知識を用いて、現在の産業構造の高度化について説明することができる。また、グローバル化やAIが職業選択に変化を及ぼしていることについて自分の意見や主張を分かりやすく表現している。 ㊟導入「AI（人工知能）の進化で職業選択は変わるか?」を活用してAIの進化について考察できるよう、また図6「産業別労働人口の割合の推移」を活用して産業構造の変化について理解を深めることができるよう指導する。
3学期	1	5	p.170-171	2 中小企業と農業	中小企業や農業には、どのような強みと弱みがあるだろうか。	①日本の中小企業や農業に関する基本的な理解に基づき、中小企業や農業の現状、課題について理解し、必要な知識を身につけている。 ②中小企業や農業の基本的な知識を用いて、現状や課題について、説明することができる。また、中小企業や農業の強みと弱みについてみずからの意見や主張を分かりやすく表現している。 ㊟図3「大企業と中小企業」、図4「農業就業人口の割合とGDPに占める農業総生産の割合の推移」を活用して、現状を把握できるよう指導する。また、導入「高いシェアを占める中小企業」などを活用して、中小企業の強みについて考察できるよう指導する。

学期	月	時限	教科書ページ	項目（タイトル）	学習課題	評価規準の具体例 ①＝知識・技能 ②＝思考・判断・表現 ③＝主体的に学習に取り組む態度/㊟＝指導上の留意点・活用資料
3学期	1	56	p.172-173	3 労働者の権利	労働者の権利が保障されるのは、なぜだろうか。	①労働者の権利および制度に関する基本的な理解に基づき、労働者の権利（労働三権、各種労働法等）や女性と労働をめぐる問題について考察するために必要な知識を身につけている。 ②労働者と企業の関係についての理解に基づき、労働契約の考え方について説明することができる。また、労働契約労働者の権利や制度についての知識を用いて、みずからの意見や主張を分かりやすく表現している。 ㊟導入「アルバイトと労働基準法」やp.176-177「求人票を見てみよう」を活用して、労働者にはどのような権利が保障されているか、またなぜ保障されているかを具体的に考えさせる。また、COLUMN「男性にも育児休業を」、図6「女性の年代別労働力率」を活用して、現代の労働環境について考察するよう指導する。
3学期	1	57	p.174-175	4 雇用と労働に関する課題	人口減少社会のなかで、どのような雇用対策が求められるだろうか。	①現代の労働環境に関する基本的な理解に基づき、労働者の雇用や環境などの問題や課題について理解し、必要な知識を身につけている。 ②労働環境に関する知識を用いて、労働環境をめぐる課題を説明することができる。人口減少社会において働きやすい労働環境、外国人労働者の受け入れなどの雇用や労働環境の変化について自分の意見や主張を分かりやすく表現している。 ㊟p.168-169「産業構造の変化と職業選択」、p.182-183「これからの社会、働くならどのような形態か？」の主題を活用して、産業構造の変化、労働環境の変化を踏まえて、みずからの働き方について、具体的なイメージを持って、考察することができるよう指導する。
3学期	1	58	p.178-179	5 社会保障の役割と意義	多くの国で政府が社会保障制度を主導しているのは、なぜだろうか。	①社会保障制度に関する基本的な理解に基づいて、社会保障の歴史、役割、日本の社会保障制度のしくみを理解し、必要な知識を身につけている。 ②社会保障制度に関する知識を用いて、市場経済における社会保障制度の役割とその内容を説明することができる。 ㊟図2「世界の社会保障制度の歴史」、図3「日本の社会保障制度の歴史」を活用して、社会保障制度の歴史と役割について深く理解できるようにする。図4「日本の社会保障制度」を活用し、社会保障制度の種類を分類できるよう指導する。
3学期	1	59・60	p.180-181	6 社会保障制度の課題	日本の社会保障制度を持続可能なものにしていくためには、何が必要だろうか。	①少子高齢化と社会保障制度の基本的な理解に基づいて、持続可能な社会保障制度と福祉社会のあり方を考察するために必要な知識を身につけている。 ②社会保障制度に関する知識を用いて、少子高齢化が進むなかでの社会保障制度の課題、持続可能な社会保障制度に向けての改善点について、みずからの意見や主張を分かりやすく表現している。 ㊟p.8-9「私たちの生きる現代社会」や、図2「歳出における社会保障関係費の推移」、図3「国民負担率の国際比較」を参考にして、少子高齢化における財政面での負担について課題意識を高めるよう指導する。また、p.184-185「どのような公的年金制度が望ましいか？」の主題を活用して、持続可能な公的年金制度を具体的に考察・構想できるよう指導する。

第2部 3章 3節 国際経済の動向と格差の是正(6時間)

<取り扱う現実社会の事例や課題>

㊟経済のグローバル化と相互依存関係の深まり（国際社会における貧困や格差の問題を含む） など

<主題学習のテーマ：この節の問い>

「国内工場の海外移転にどう対応するか? ㊟」(p.200-201諸課題)

<指導上の留意点>

この単元では、グローバル化の進展により経済活動が世界的な規模で行われていることに対する正確な理解に基づき、貧困や格差のないよりよい国際社会の形成に向けた取り組みについて自分の意見を表現することを通じて、経済のグローバル化と相互依存の深まり、国際社会における貧困や格差の問題などについて理解させる。国際経済と日本との関わりや、文化・宗教の多様性とグローバル化の関係なども踏まえた具体的な問いを設定し、その解決策を考察・構想できるよう支援することに留意する。

①経済のグローバル化と相互依存関係の深まり（国際社会における貧困や格差の問題を含む）などに関わる現実社会の事例や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させた国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること、およびより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解している。
①現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した経済主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身につけている。
②自立した経済主体として解決が求められる具体的な主題について、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。
③経済のグローバル化と相互依存関係の深まり（国際社会における貧困や格差の問題を含む）などに関わる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。

3学期	2	61	p.186-187	1 国際経済のしくみ	国家間で貿易が行われているのは、なぜだろうか。	①国際経済に関する基本的な理解に基づいて、国際分業の意味、自由貿易の必要性、外国為替相場、国際収支に関する必要な知識を身につけている。 ②比較生産費説、外国為替相場、国際収支についてその内容を説明できている。また、これらの理解を踏まえて、自由貿易の推進について、みずからの意見や主張を、分かりやすく表現できている。 ㊟貿易による分業の利益については、図2「比較生産費説」を参考にする。国際収支と為替変動の具体的な影響と要因についての理解は、p.188-189「国際収支と為替変動の見方」を活用する。
3学期	2	62	p.190-191	2 国際経済の特組み	国際経済には、どのような機関やルールがあるだろうか。	①戦後の国際経済の動向に関する基本的な理解に基づいて、為替相場安定や自由貿易推進のための国際機関とその制度やルールに関する必要な知識を身につけている。 ②国際機関の知識を用いて、為替相場安定や自由貿易推進のための制度やルールについて説明できる。また、これらの制度やルールの課題について、自分の考えや意見を分かりやすく表現している。 ㊟図3「戦後の国際経済体制と円相場の変化」や導入「戦後日本の復興と世界銀行の支援」などを活用して、具体的な題材を扱うようにする。
3学期	2	63	p.192-193	3 地域経済統合	地域経済統合にはどのような特徴があるだろうか。	①地域経済統合の基本的な理解に基づいて、地域経済統合の現状や課題に関する必要な知識を身につけている。 ②地域経済統合の基本的な知識を用いて、EUを事例に発展過程と問題点について説明できる。また、EU以外の地域経済統合について、みずから調べて説明できている。 ㊟図3「世界の主な地域経済統合」を活用して、それぞれの広がりや規模について確認できるよう指導する。
3学期	2	64	p.194-195	4 グローバル化と自由貿易協定	経済のグローバル化はどのように進み、どのような影響を与えているだろうか。	①経済のグローバル化に関する基本的な理解に基づき、グローバル企業の展開と課題について理解し、自由貿易協定の動向について必要な知識を身につけている。 ②経済のグローバル化と自由貿易協定の基本的な知識を用いて、その影響と是非に対するみずからの意見や主張を、分かりやすく表現している。 ㊟p.200-201「国内工場の海外移転にどう対応するか?」の主題などを活用し、グローバル化が国内産業に与える影響を多面的・多角的に考察できるよう指導する。
3学期	2	65	p.196-197	5 国際経済の変化と課題	グローバル化が進むなか、国際経済はどのように変化しているだろうか。	①新興国の台頭や近年の国際経済の動向に関する基本的な理解に基づき、国際経済の変化と課題について考察するために必要な知識を身につけている。 ②新興国台頭の背景と、近年の国際経済・金融危機に関する基本的な知識を用いて、国際経済におけるパワーバランスの変化とそれによって生じる課題について説明することができる。 ㊟特に中国については、COLUMN「『超大国』中国の取り組みと課題」を参考に、国際経済に及ぼす影響について理解を深めることができるよう指導する。
3学期	2	66	p.198-199	6 経済格差の是正	経済格差の是正に向けて国際社会はどのように取り組んでいるだろうか。	①国際経済における経済格差と貧困に関する基本的な理解に基づき、南北問題の発生の原因、格差の是正、先進国の発展途上国に対する支援と現状と課題について考察するために必要な知識を身につけている。 ②国際経済における経済格差に関する基本的な知識を用いて、南北問題の発生の原因、格差の是正について説明することができる。また先進国による発展途上国への経済支援のあり方について考え、みずからの意見や主張を分かりやすく表現している。 ㊟発展途上国に対する経済援助のあり方については、図6「ODA（政府開発援助）の種類」やp.38-39導入「モノよりも『できること』を」を活用して、支援や援助の意義や目的にも触れることができるように指導する。

第3部 持続可能な社会の実現に向けて(4時間)

<主題学習のテーマ：この節の問い>

「増加する医療費を誰が負担すべきか?」(p.212-213諸課題)

「パリ協定目標達成のために国際社会に必要なことは?」(p.214-215諸課題)

<指導上の留意点>

この単元では、第1部、第2部の学習を振り返りながら、第1部、第2部の各領域を横断する課題を探究する単元であり、「公共」のまとめとして、これまでの学習の成果を活用することができるよう十分な授業時数を確保することが必要である。

①第1部、第2部の学習を振り返りながら、地域の創造、よりよい国家・社会の構築および平和で安定した国際社会の形成へ主体的に参画し、共に生きる社会を築くという観点から課題を見いだしている。
②第1部、第2部の学習を振り返りながら、課題の解決に向けて事実を基に協働して考察、構想し、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、論拠を基に自分の考えを説明、論述している。
③第1部、第2部の学習を振り返りながら、幸福、正義、公正などに着目して、現代の諸課題を探究する活動に積極的に取り組み、持続可能な地域、国家・社会および国際社会づくりに向けた役割を担う、公共の精神を持った自立した主体として、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

3学期		67・70	p.204-211	課題探究学習の手引き		①これまでの学習で身につけた知識を活用し、みずからの関心に基づいて、より学習を深めることができる課題を設定している。 ②課題に関する統計や図表等の情報を整理し、それに基づきみずから考え判断したことを整理して、レポート等の形で分かりやすく表現している。 ㊟課題に関連した統計や図表の収集・読み取りを通じて、主張を裏付ける説得力のある根拠を示すことができるよう指導する。
-----	--	-------	-----------	------------	--	---